



やまなしもち

平野 直 再話 太田 大八 画

福音館書店 1977年 1260円

40ページ 21×23cm

3人の兄弟が、病気の母の願いで、奥山にやまなしをもちに行きます。1番上のたろうが出かけたとき、途中で出会ったばあさまに忠告を受けるのですが、たろうは忘れて違う道をどんどん行ってしまい、たろうは戻ってきませんでした。2番目に出かけたじろうも、ばあさまに言われたことを忘れ、戻ってきませんでした。そこで3番目のさぶろうが出かけていきます。さぶろうはばあさまの言うとおりに進んで、大きな沼のそば、ざらんざらんとなっているやまなしのもとへたどりつきますが……。山の秘密を知らずに出かけた兄弟の道行きを、ページを繰るにつれ色彩の増す絵が力強く盛り上げていきます。岩手県の民話です。



ゆきのひ

エズラ・ジャック・キーツ ぶん・え
きじま はじめ やく

偕成社 1969年 1260円

32ページ 23×25cm

冬のある朝、小さなピーターは、夜の間に雪がふりつもったことを知り、赤いマントを着て外に飛び出します。歩いていくと、きゅっ、きゅっと音がなり、雪の上に足跡が残ります。ピーターはひとりで雪遊びを楽しみます。雪に天使のあとをつけたり、雪だるまをつくったり山登りごっこをするのです。最後に、明日遊ぼうと思って雪だんごをうちへ持ってかえることにします。でも、雪は溶けてしまいました。

コラージュによる絵で、淡い色彩に赤いマントを見ていると、雪の日はずむような楽しさを誰もが味わえることでしょう。翌日には友達とまた雪遊びに出かけるという終わりがたにも尽きぬ楽しさがあります。

